

第4回東南アジア分科会議事録

開催日時:平成19年3月29日(木) 13:00-15:00

場 所:東京文化財研究所 会議室 地階

出席者: 分科会委員(上野・片桐・友田・布野・宮崎・大和)、文化庁(浅野・勝平)、外務省(関・守山・細川)、国際交流基金(片山)、東文研(青木・稲葉・永井)、奈文研(井上)、事務局(豊島・田代・延近)

欠席者: 分科会委員(石澤・柴山・坪井・中川)

■第1回 タンロン遺跡の保存に関する日越専門委員報告

(文化遺産国際協力センター 青木繁夫)

報告と概要

- 2007年3月19日ハノイのハノイ古城・コーロア遺跡保存センターにおいて、タンロン遺跡保存に関する第1回日越合同専門委員会を開催した。
- 委員会の内容:①ベトナム側からのタンロン遺跡現況報告(暫定リストへの登録、国会建設案、日本のカウンターパートとしてのコーロアセンター、埋め戻し、遺跡全体の3D復元、博物館建設案)②発掘の近況報告(現在国土座標の数値化作業中)③質疑応答(首相の指示による専門委員会設立、遺跡保存予算はハノイ市人民委員会、執行はコーロア遺跡保存センター)④今年度協力の報告・評価と来年度以降の協力について、

- ・ 3月12日の週に、ユネスコと外務省の間で年に1回開催される日本ユネスコ信託基金のレビュー会合があった。ユネスコとしても、2010年のタンロン遺跡の世界遺産登録は難しいのではないだろうかという見解を示していたが、日本ユネスコ信託基金でタンロン遺跡保存協力を行うことについては賛同してくれている。
- ・ 専門委員会が立ち上がったので、4月上旬にでも、班長会議で具体的協力内容について協議する必要がある。
- ・ ベトナムの計画としては、国会を現在の位置に建て直すのみで済むのだろうか。
- ・ (ハノイ市の)「政治中心地計画」では、国会議事堂はホーチミン廟の前に建設されるのだが、その周辺も含めての整備計画があるかどうかは、専門委員会では議論しなかった。
- ・ 今回の専門委員会で、ベトナム側が協力を求めてきた技術支援、専門家養成、世界遺産申請書の作成支援については、会議の場においてはベトナム側が先ず計画を提示することとなっているが、それを待つのではなく、日本として、どのような協力ができるかという内容を具体的にあげていかなければならない。
- ・ 各班毎に具体的協力内容について協議する必要がある。
- ・ ベトナム側に対して意見等があれば、外務省に申し出てほしい。
- ・ 遺構精査は、現在までの支援によってある程度成果があったと思う。今後は、次の遺構自体の保存処置の段階に移っていく支援をするべきである。そうでなければ、現在の状況では出土した木造の柱も遺構そのものも劣化していくばかりである。
- ・ 精査作業はまだすべて終了していないと理解している。いくつかの発掘箇所については、ベト

ナム側専門家と日本側専門家で見解の相違がある。

- ・ 草の根文化無償で供与される機材の中には、気象観測装置がある。この供与が行われ次第、保存工学の専門家を派遣したい。
- ・ 保存は緊急的に必要なので、観測よりも保存処理の専門家として保存科学の専門家を派遣するのはどうか。
- ・ 発掘された後の遺構については、精査作業が終了したら保存の方針が決定されるまで、とり急ぎ埋め戻しするのはどうか。しかし、それはベトナム政府が同意するのは難しいので、ベトナム側と埋め戻しの問題も含めて遺構の保存をどうするか、話し合う場を設けるべきである。
- ・ 遺構の保存について話し合う場で、遺構の解釈の相違についても、議論していき、合意する必要があると思う。

■ ジャワ中部地震による文化遺産第二次被害調査報告

(筑波大学 大和智)

報告と概要

- 全派遣期間は2月20日～3月10日。派遣されたのは、大和智(筑波大学)、花里利一(三重大学)、小野邦彦(早稲田大学)、文建協職員など計20名。
- 調査の柱となったのは、構造調査、破損状況調査、修理設計に向けての調査、ラジコンヘリによる遺跡上部の破損状況把握調査、修復履歴資料収集調査であり、すべて現地との共同作業として実施した。また、調査期間中に開催されたユネスコの国際専門家会議に参加し、現在までの調査結果を発表した。
- 常時微動調査については、より多くの微動計を使用して6祠堂すべて測定した。
- 地盤調査については、表面波探査と3箇所ボーリング調査、PS計測を実施した。
- コンクリート、石材の材料強度試験は現地業者およびバンドゥン工科大学と協力して実施した。
- 修理設計のための調査については、文建協の協力のもと実施された。調査期間中には頻りに現地政府専門家との討議の場を設け、意見交換を行った。また、現在の足場設計には問題があることが判明し、新たな仮設足場設計と積算をだした。
- ラジコンヘリを使用した空撮は、プランバナナ遺跡の6祠堂とセウ寺院、ポロブドゥール遺跡において行った。また、インドネシア側でとった3Dデータを提供してもらったので、このデータと空撮写真とあわせて加工することが可能である。
- 修復資料収集については、ブラフマー祠堂とヴィシュヌ祠堂の修復記録としてのこっていた月報を手に入れた。また、プランバナナ遺跡管理事務所に保存されていた図面を収集した。
- ガジャマダ大学およびバンドゥン工科大学と連携をし、ガジャマダ大学からは地質学分野の情報を提供していただき、バンドゥン工科大学には構造学分野からの協力をいただいた。将来的に、祠堂に地震計を設置するのはどうか、という意見もでてきた。
- インドネシア政府が主催、ユネスコ支援によって開催された国際専門家会議に出席し、1次、2次調査の結果を報告した。会議の出資者はサウジアラビア政府であり、招待としてインド、中国(以上、本国からの派遣)、イタリア政府(現地イタリア文化会館からの派遣)が参加した。具体的に支援を表明したのは、イタリア政府のみ。アメリカ本部のGlobal Heritage Fundからも支援表明があった。イタリアの支援の形としては、人材派遣が考えられる。参加国のなかで、具体的調査を実施していたのは、日本のみだった。6月には専門家会議を開きたいとの希望があり、日本に対してはそこで調査結果をまた発表してほしい、という希望をいただいた。

- ・ 日本から供与する足場は、ユネスコから供与されているものと交換するという意味か。
→ そうではなく、現在ある資材を有効に使用するために必要となる足場資材である。緊

急に足場が必要なガルーダ祠堂に必要な資材を考えたら、そこに加えなければならぬ資材購入を提言した。

- ・ 補強のための基本方針は、どうなっているのか。
→ 具体的な修理方針にはいたっていない。まだそこまでの情報もまだ持っていないと思う。
- ・ 先週日本の文部科学大臣とイタリアの文化財・文化活動大臣の間で文化財分野の協力の合意をしたのだが、文部科学省には、イタリアがプランバナン遺跡保存支援に興味を示している情報はとどいていないようだ。
- ・ ユネスコの専門家であるクローチ博士は、セウ寺院に対して補強提言をしているが、現況として、セウ寺院ではその提言が機能していないという問題もある。
- ・ 6月会議までに2次調査結果を提出できるようにしておく必要がある。

■ 町並みワーキンググループの活動報告（昭和女子大学 友田博通）

報告と概要

- 町並み保存協力事例として報告会を実施したい。
- 今後の日本による町並み援助に対する提案をしていきたい。
- 町並み保存は、政府だけで援助できるものではない。そのような中での政府援助の役割を考えたい。
- 白書をまとめてシンポジウムを開催したい。

- ・ 新たな海外調査を考えているのだろうか。
→ そういうことは考えていない。それぞれの調査範囲で報告をしていただく。
- ・ 台湾については、三重大学の浅野氏が町並み保存に関わっている。韓国についてはわからない。
- ・ ユネスコのリビングヘリテージとは？
→ リビングヘリテージはユネスコが定義しているわけではないが、プロジェクトを構築するときに頻繁に使用されている言葉である。その意味としては、dead(死んでいる)ヘリテージに対するもので、人々が生活している町の保存などでよく使われている言葉である。

■ 次回東南アジア分科会の予定

日時:6月1日(金)午後1時～午後3時

場所:東京国立博物館 平成館 3F